



よこはま



HP : <http://www.mod.go.jp/rdb/s-kanto/>



Photo: 中華街

◇目次◇

- 1 局長挨拶
- 2 米海軍横須賀基地 (ジョージ・ワシントン初公開)
- 3 南関東防衛局長からの感謝状贈呈・米海軍厚木航空施設司令官の着任訪問
- 4 防衛問題セミナー開催 (第10回)
- 5 浜松防衛事務所の移転、防衛省情報セキュリティ月間の標語
- 6 日米共同方面隊指揮所演習「ヤマサクラ55」に初参加
- 7 関係自治体だより

編集企画: 南関東防衛局 広報紙「よこはま」編集委員会
発行: 南関東防衛局 総務部報道室 Tel. 045-211-7129
〒231-0003 横浜市中区北仲通5-57 横浜第二合同庁舎

局長挨拶

平成21年最初の広報紙「よこはま」の発行に当たり、防衛省南関東防衛局を代表致しまして、ご挨拶申し上げます。



齊藤局長

昨年は、関係自治体や地域の皆様のご理解、ご協力を賜り、当局は、数々の成果を上げることが出来ました。5年に1度手続きが必要となる北富士演習場入会協定及び使用協定の更新は、一昨年9月の防衛省組織改編後、当南関東防衛局としては初めての取り組みでしたが、地元関係者のご協力を賜り、円満に20年3月末までに終わることが出来ました。

米海軍原子力空母ジョージ・ワシントンの横須賀展開は、我が国の防衛・地域の平和と安定のため重要な事業であり、当局は主として浚渫工事の事業を担いましたが、横須賀市を始め関係機関のご理解を頂き、空母入港前の昨年8月までに無事故で浚渫工事を成し遂げることが出来ました。また、昨年8月にはキャンプ座間に関し地元の負担軽減策等について国（防衛省）と座間市が協議する場を設置出来たことなど、改めて関係者の皆様方に深く感謝の意を表します。

本年も、当南関東防衛局は、防衛問題セミナー等を通じて防衛省の施策について地元自治体・地域住民の皆様のご理解、ご協力を賜るべく引き続き努めて参る所存でありますとともに、常日頃騒音・振動によりご迷惑をお掛けしている飛行場・演習場周辺の住民の皆様方に対する防音工事等の助成事務の円滑な実施とそれら事務の改善措置、横浜市所在米海軍提供施設の返還事務の着実な実施、更に、キャンプ座間や厚木飛行場等に係る米軍再編等の事業の実施など、各般に亘る当局の事務について、是非とも一定の成果を上げて参りたいと考えております。関係自治体・地域住民の皆様の変わらぬご理解、ご協力を切にお願いする次第であります。

さて、成長（戊）と繁栄（子）の年となるはずであった平成20年は、年の後半から失速した感があります。米国発の百年に一度と言われる世界的な金融・経済危機は、当初日本への影響は小さいと言われていましたが、昨年9月以降、世界的な需要減退に伴い、日本の実体経済・雇用情勢に影響を及ぼしています。本年1月、米国の新政権がスタートしましたが、米国経済の建て直しを最優先とせざるを得ない中、今後米国国防費の削減が予想され、日米安全保障関係を含めその影響が懸念されるどころです。

こういった中、政府としては、年末に向けて、わが国の安全保障方針や防衛力の在り方を記した「防衛計画の大綱」の見直しや平成22年度以降の「中期防衛力整備計画」を策定するという重要な年に今年当たります。防衛施設の安定使用のため当局が担っている防衛施設行政もその動向・結果に左右されることになるものと思われま

奥巴马米国新大統領は、就任演説において、「我々が今日問う質問は、政府が大きすぎるか小さすぎるかということではなく、それが機能しているかどうかである。答えがイエスの分野であれば、我々は進める意図をもち、ノーの分野であれば、事業は終わるだろう。(The question we ask today is not whether our government is too big or too small, but whether it works. Where the answer is yes, we intend to move forward. Where the answer is no, programs will end.)」と述べています。

当局が所管する神奈川県、静岡県、山梨県は、我が国の防衛、東アジア・太平洋地域の平和と安定を図るために必要不可欠な自衛隊及び米軍の施設を多く抱えています。地元自治体・地域住民の皆様のご理解・ご協力、更には自衛隊・米軍との日頃の交流・信頼関係があってこそ、それら施設の安定使用が図られるということは、言うまでもありません。防衛省の要の地方防衛局として当局が果たすべき役割・機能に引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。本年最初の当局広報紙「よこはま」の冒頭のご挨拶と致します。

南関東防衛局長 齊藤 敏夫

米海軍横須賀基地（ジョージ・ワシントン初公開）

米海軍横須賀基地で、12月6日基地開放イベント「グランド・イルミネーション」が開催され、原子力空母ジョージ・ワシントン（GW）が初めて一般公開されました。

当日は好天にも恵まれ、公開に対する一般市民の関心も非常に高く基地正面ゲートが午前9時の開門時には来場者が長蛇の列をつくり、手荷物検査を受けた後、続々とゲートを通って行きました。閉門時の午後5時までには約2万9千人が同基地を訪れ、来場者の中には遠く岡山県などから見学に訪れた人もいました。公開された艦内は、約1万8千平方メートル（東京ドームのグランド部分の約1.4倍）の飛行甲板と艦載機格納庫部分で、格納庫には、舵や羅針盤などが置かれ、艦載機の離着陸のビデオ上映等が行われていました。飛行甲板では、現役を引退した艦載機1機（F/A-18）が展示されており、その周りには多くの人が集まり、また、ブリッジをバックに記念写真を撮る姿がみられました。

来場者からは、空母のスケール（全長約333m）に圧倒された様子で「大きいな！」という驚きの声が多く聞かれました。

一方、基地内ではアメリカンフード屋台やグッズを販売する売店、ゲームコーナー、バンド演奏が行われ、家族連れがハンバーガーなどを美味しそうに食べながらイベントを楽しんでいる姿が印象的でした。また、暮れなずむ空の下、基地内に停泊している艦船への電飾やライトアップにより、幻想的な空間を醸し出していました。



GW見学者の長蛇の列



甲板上を見学する人々



格納庫内の風景



甲板上に展示された艦載機

南関東防衛局長からの感謝状贈呈



9月10日 五栄土木(株)部谷代表取締役(左)
(於:南関東防衛局長室)



9月10日 ヤマト工業(株)小堀支店長(左)
(於:南関東防衛局長室)

平成20年9月10日、原子力空母ジョージ・ワシントンの米海軍横須賀基地入港のため、円滑かつ確実な浚渫工事の施工に尽力し、工事を完遂した五栄土木・ヤマト工業建設共同企業体に、ケリー在日米海軍司令官とともに、感謝状を贈呈しました。

平成20年12月1日及び同月9日、陸上自衛隊北富士演習場第8次使用協定及び第5次入会協定の締結にご尽力された当事者の皆様に感謝状を贈呈しました。



12月1日 堀内 茂富士吉田市長(左)
(於:南関東防衛局長室)



12月9日 土屋 直北富士演習場対策協議会会長(左)
(於:古名屋ホテル会場(甲府市内))



12月9日 高村忠久山中湖村長(左)
(於:山中湖村役場 村長室)



12月9日 天野康則忍野村長(左)
(於:忍野村役場 村長室)



12月9日 栗原雅智富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合長(左)
(於:恩賜県有財産保護組合 組合長室)

米海軍厚木航空施設司令官の着任挨拶



1月14日 (左)ケリー在日米海軍司令官
(中)ガードナー米海軍厚木航空施設司令官
(右)齊藤南関東防衛局長
(於:南関東防衛局長室)

平成21年1月14日、米海軍厚木航空施設司令官エリック W. ガードナー大佐は、在日米海軍司令官のケリー少将とともに南関東防衛局を訪れ、齊藤局長を訪問しました。

同大佐は、バージニア州ポトマック研究所で研究員として、2007年8月～2008年7月まで勤務され、2008年12月、米海軍厚木航空施設司令官に就任しました。

防衛問題セミナー開催（第10回）

12月9日（火）、神奈川県藤沢市の藤沢リラホールにおいて、第10回防衛問題セミナーを開催いたしました。

テーマは「国際テロを根絶するために（インド洋での補給支援活動）」で、講師は当局加野企画部長、山本外務省安全保障政策課長補佐、尾島海上幕僚監部援護業務課長が務めました。当日は、あいにくの雨天にもかかわらず、多数の方々に参加いただき、無事に終了しました。



質問に答える講師

平成20年度「防衛問題セミナー」を開催して

当局のセミナーは、今年度6回（横浜市南区、横須賀市、横浜市中区、浜松市、御殿場市、藤沢市）開催し、各会場では、セミナーに参加された皆様にアンケートの協力を頂きました。

多数の回答を頂きましたが、今後のセミナーを開催するにあたり希望するテーマとして、「日本の防衛力」、「自衛隊の活動状況」、「国際貢献」、「地域情勢」、「国民保護」等のご意見がありましたので、今後の参考とさせていただきたいと思えます。



第5回（横浜市南区）
「自衛隊の災害派遣と国民保護」



第6回（横須賀市）
「我が国の安全保障と日米同盟」



第7回（横浜市中区）
「国際テロを根絶するために
～インド洋での補給支援活動～」



第8回（浜松市）
「国際テロを根絶するために
～インド洋での補給支援活動～」



第9回（御殿場市）
「国際テロを根絶するために
～インド洋での補給支援活動～」



第10回（藤沢市）
「国際テロを根絶するために
～インド洋での補給支援活動～」

浜松防衛事務所の移転



新庁舎の全景

浜松防衛事務所は、昭和45年2月に庁舎（浜松市中区三組町28-29）を設置しましたが、平成20年12月8日、建設計画から10数年の歳月を経て同年11月中旬ようやく完成した浜松合同庁舎（浜松市中区中央1丁目12-4）8階に移転しました。同庁舎は、JR浜松駅の北に徒歩で約10分のところに位置し、地上12階、地下2階建ての施設で、浜松西税務署を管理官庁とする9官署が入居しています。

同庁舎南側の一画には、落成式（12月10日）において記念植樹された「クスノキ」があり、これは地域の人々の拠点施設のシンボルとして植えられたもので、常緑高木で直立する幹と深く濃い緑の葉を特徴としています。

また、当事務所がある8階からは、南に210メートルのアクトタワーを中心とする近代的な建物が見渡せ、晴れた日には北東に遠く富士山を臨むことができ、さらに上階では南に雄大な遠州灘の波のキラメキが、北に南アルプスの赤石連山の山並みを見渡すことができます。

一方、旧庁舎は昭和45年2月の設置と同時期に入居して以来、実に40年近く幾多の諸先輩がお世話になった今では数少ない省庁別庁舎で、かつて「秋葉の森」と呼ばれた三方原台地の南端に位置し、戦国時代の「長篠の合戦」において戦の前に時勢を判断し一族郎党を率いて徳川家康の家臣となった奥平信昌氏の屋敷跡があるなど旧跡の点在する住宅地にありました。また、隣接する秋葉神社のうっそうとした杉木立に面し、敷地内を鳥獣が徘徊し、なかでも台湾リスは執務室に窓から入り込み餌をねだり、カラスに追われた野鳥が窓ガラスに激突し脳しんとうを起こし、それを蘇生させようとする職員の処置等、まさに京都高山寺蔵の鳥獣人物戯画絵巻さながらのいやし系の環境でした。

今般の移転において当事務所も、周辺の変化が遠い昔から一気に未来にタイムスリップしたかのような隔世の感があるものの、これを契機に職員一同それぞれ気持ちを新たに防衛行政に取り組んでいます。



旧庁舎の全景

防衛省情報セキュリティ月間の標語

南関東防衛局では、平成21年防衛省情報セキュリティ月間（2/1～2/28）にちなんで、職員の情報セキュリティに対する意識の高揚等を図ることを目的に、平成21年の重点テーマである「私有パソコンからの情報流出の根絶」の標語を全職員から募集し、応募の中から32点を選び、更にこれを全職員の投票によって最優秀作品1点を選出しました。

その結果、最優秀作品は、座間防衛事務所 施設第2係 西田昌弘事務官の「機械より気持ちにかけよう セキュリティ」が選ばれました。

日米共同方面隊指揮所演習「ヤマサクラ55」に初参加

平成20年度日米共同方面隊指揮所演習（ヤマサクラ（YS））が陸上自衛隊朝霞駐屯地で行われ、当局からは職員6名が12月8日から13日までの6日間にわたり演習に参加しました。陸上自衛隊と米陸上部隊が円滑な共同作戦を実施できるよう方面隊以下の演習部隊が実戦同様の指揮幕僚活動を演練するもので、昭和57年から毎年各方面隊持ち回りで行われています。



部外連携調整所での打合せ

日本側は東部方面隊など約4500人、米側は太平洋陸軍司令部、第3海兵師団などから約1200人が参加し、敵部隊の侵攻と同時に広域で多発する弾道ミサイル、ゲリラコマンドー、国民保護など多種多様な事態への対応を想定した「フルスペクトラム」作戦を実施しました。

今回、新たな試みの1つとして米軍行動関連措置法等による米軍との調整の場が取り込まれ、作戦地域に所在する当局と北関東防衛局が初めて参加する運びとなりました。本演習では、当局と北関東防衛局により防衛局グループを編成し、24時間2交代制で後方支援調整所、部外連携調整所、統裁部に分かれて演習に参加しました。防衛局の職員にとっては不慣れな訓練やDayシフト・Nightシフト（昼間と夜間）による12時間を超える過酷な条件下での訓練ではありましたが、各人が与えられた任務を理解し米軍からの要望等に対し適切に対応していました。

当局の演習参加者からは、「滞りなく米軍に対する作戦支援ができ、今後の訓練態勢の構築に繋がる第一歩となった。有事における地方防衛局の役割がある程度認識できた。」等の成果があったとの意見があり、また、「来年度以降も継続的にYS訓練の視察を行うべき。実践的な訓練を行うため本省の参加が必要である。マニュアルの作成・整備が必要である。」等の要望もありました。



後方支援調整所での打合せ

本演習は、防衛省あげての演習ということもあり、浜田靖一防衛大臣をはじめ内外から約1800人に及ぶ視察・研修者があり、当局からも、次長、管理部長等が視察に訪れ参加者を激励しました。

12月13日、午後7時30分、ラッパの合図とともに6日間にわたる本演習は無事終了しました。

関係自治体だより

御殿場市は、静岡県東部に位置し、東に箱根外輪山、西に霊峰富士山を仰ぎ見、富士の麓の美しい自然に恵まれた緑豊かな高原のまちで、市域面積は、194.63km²、人口は約9万人余であります。標高は市役所付近が460mで、夏涼しいことから、戦前より別荘地として開け、多くの著名人の建物が現在も残されております。

当市域を含む富士山の麓には東富士演習場が所在し、市の面積の約3分の1を占めており、他の演習場と異なり民公有地が多いことが特徴で、その割合は民公有地が約60%、国有地が約40%となっています。

市内には陸上自衛隊施設の滝ヶ原、板妻、駒門の3駐屯地が所在し、在沖米海兵隊基地司令部の管轄下に属しているキャンプ富士も所在しています。

近年の東富士演習場における不発弾の事故については、平成15年5月と同年6月に同演習場から不法に持出した砲弾等により、爆発事故が発生しました。そのため同年12月に、東富士演習場における不発弾爆発事故防止対策を地元側と国側で安全管理方策等について協議するために、東富士演習場安全対策委員会拡大会議が開催されました。

同拡大会議では、不法立入者を未然に防止する対策として、不発弾持出し等により人身に死傷を来すことがあってはならないとの考えの下、安全管理の徹底を最大限に図るための措置として、弾着区域及び標的設置区域の境界沿いの2区域に、地元関係者等の理解を得て自衛隊が柵を設置しました。

一方、当市においては、同報無線や広報紙などにより「演習場立入日及び立入りできる者の周知徹底」、「不発弾の危険性についての注意喚起と発見時の対応」、「砲弾類を所有している場合の連絡方法」等について繰り返し市民に周知しています。

また、演習場を管理する陸上自衛隊においても、「演習弾の廃弾の除去及び不発弾捜索の効率化」、「不発弾清掃の指導強化」、「着弾地域を重視した巡察の重点実施」、「不発弾処理技能者の育成」等、安全管理の徹底強化に努めています。

当市としては、今後においても、自衛隊と連携して不発弾爆発事故が起きないように、演習場内の不発弾については陸上自衛隊、演習場外で発見された不発弾処理については、市町、警察当局、陸上自衛隊等による関係機関の取組みを迅速に行い、不発弾等危険物の絶無に向けた協力態勢で取り組んでおります。

御殿場市企画部演習場渉外課



主な砲弾の形態の一例
(陸上自衛隊富士学校提供)



柵等の設置状況